

## AcademicLink

Chiba University | Academic Link Center

## **1210**あかりんアワー 教員が研究の楽しさを語る 第62回(1/28) 酒井啓子先生推薦 ブックガイド

※掲載されている本はN棟3階ブックツリーのテーマ展示コーナーに配架されます。

Book1 < 中東>の考え方 著者: 酒井啓子 出版社: 講談社 コメント: 「中東」地域がそもそもヨーロッパ目線で、アジア進出のために 設定された地域だということを前提に、国際政治の矛盾と確執を象徴 する存在だとして、中東地域の国際政治を論じたもの。「アラブの春」が 起きる直前の中東社会で、若者がどのような社会意識を抱いていたのか、映画や音楽にも言及したビビッドな分析も、参考になる。



Book2 イラク女性の占領下日記 著者:リバーベンド 出版社:アートン Book3 いま、イラクを生きる 著者:リバーベンド 出版社:アートン

Book4 サラーム・パックスーバグダッドからの日記

著者: サラーム・パックス 出版社:ソニーマガジンズ コメント:この三冊は、いずれもイラク戦争中・直後にイラク人が発信して きたブログを本として出版したもの。特に最後のサラーム・パックスは、 戦争前、フセイン政権による情報統制が厳しいなかでもブログを書いて いた若者がイラクにいたこと、しかもゲイで最新のロック大好きな若者で 英語でブログを書いていることで、「独裁者の支配する野蛮で遅れた国」 だと思ってイラクを攻撃した米軍兵士を含めて、国際社会に、「イラク人は こんなフツーの人々だったのか」と、衝撃が走った。







Book5 イラクは食べる 著者:酒井啓子 出版社:岩波書店 コメント:イラク戦争後のイラクの混乱を、イラク料理や社会慣習に絡めて 解説。各章に、料理レシピが付いています。



Book6 アラブ500年史 著者:ユージン・ローガン 出版社:白水社 コメント:16世紀以降のアラブ地域の歴史を、当時の事件を体験した人たち が残した史料を中心に、アラブ人の視線で描いたもの。特に、イラク戦争で 徹底的に自信を打ち砕かれたアラブ社会の「現代」から歴史を振り返って いるので、欧米諸国がアラブに対して、いかに昔から正義と蔑視意識を 持って接してきたかが、よくわかるエピソードが並べられている。

